

地域自立支援協議会（就労支援部会） 7.25

（中嶋課長補佐） 皆さん、おはようございます。鳥取県障がい福祉課の中嶋です。こちらの音声と画像いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。はい、ありがとうございます。まだ入室されていない方もいらっしゃると思いますが、定刻の10時になりましたので令和5年度鳥取県地域自立支援協議会第1回の就労支援部会のほう開催させていただきたいと思います。そうしましたら開催に当たりまして、障がい福祉課長の中野より御挨拶のほう申し上げます。

（中野課長） はい。鳥取県障がい福祉課長の中野です。皆様おはようございます。お忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。今年度第1回の就労支援部会ということでございます。8月には委員の改選などもございますので、この体制で自立支援協議会を行うのは恐らく最後ということになるかなと思っております。ぜひ皆様より忌憚なき御意見をいただければと思います。本日は一般就労の移行の状況ですとか、あとA型のスコアが最新のものが見えていますのでその動向、あとは西部のほうでやっている総量規制に関して、これまでの議論を踏まえた続きということでさせていただいております。ぜひ皆様、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

（中嶋課長補佐） そうしましたら本日の議事と資料ですけども、事前にお配りしております次第に記載のとおりとなっております。読み上げのほうは割愛をさせていただきます。また、出席委員につきましても事前にお送りしている委員等名簿のとおりですので、個別の紹介のほうは省略のほうさせていただきます。あと、1点訂正ですけども、オブザーバーの大森様、この資料のほうでは就労継続支援B型事業所もみの木作業所所長となっておりますが、正しくは社会福祉法人もみの木福祉会の業務執行理事となります。すみません。訂正してお詫び申し上げます。それでは早速議事のほうに移りたいと思います。以後の議事の進行につきましては、部会長であります中井部会長のほうにお願いできたらと思います。中井部会長よろしく申し上げます。

（中井部会長） はい、皆さんおはようございます。暑い中ありがとうございます。本日は3つの議事を用意しております。皆さんのほうに忌憚のない御意見をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。それでは議事のほうに入りたいと思います。まず、1つ目の議事のほうですが、一般就労移行の状況及び就労移行支援事業所の状況についての説明をお願いいたします。

（東口主事） それでは資料1、福祉施設から一般就労への移行状況、こちらの資料を基に令和4年度のA型、B型一般就労移行事業所からの移行者数のほうまとめさせていただいております。結果としまして、令和4年度については県内全域での一般就労移行者数が62名、令和3年度の70名から8名減少したものとなります。令和3年度については、3年後にコロナの中でも回復傾向があったというところだったのですが、なかなか令和4年度はピークが一定になったという経緯もあって、恐らくその影響もあったのかなと思っております。B型事業所は32名、A型事業所は9名、移行支援事業所は21名になります。B型事業所と移行事業所については、ほぼ前年と動きはないというか、微減ぐらいになっているところなのですがA型事業所が前年15名になったところが9名に減少していると、減少幅が大きいような形になっております。圏域ごとで見えます

と東部圏域が12名、中部圏域が7名、西部が合わせて43名となります。東部、中部についてはB型事業所からの一般就労移行者がもっとも多くて、西部圏域では毎回同じような形にはなっているのですが、就労移行支援事業所さんの頑張っておられることがあって、就労移行支援事業所からもっとも多くなっています。ただ、令和4年度につきましては就労移行19名取ったところはB型事業所もかなり、一般移行就労の中で18名とかなり迫ってきているというところがあります。1番の説明は以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。ただいまの報告で皆さん御意見、また御質問のある方はいらっしゃいますか。山中さん。

(山中オブザーバー) すみません。次回からでいいと思うのですが、何名の、B型が多いとか、A型がこれだけだとかっていうのは何名サービス利用がいて、そのうち何名が行ったのかっていうところが些事分ると本当にA型分母に対してどれだけの成果が出ているのか、B型の分母に対してそれだけなのかって分ると思うので、またそういったことも注記であると分かりやすいのかなというふうに感じました。以上です。

(東口主事) 分かりました。

(中井部会長) はい、御意見ありがとうございます。県のほう、中嶋さんいかがですか。

(中嶋課長補佐) はい。分かりました。山中様から意見いただいていたように、B型、恐らく全体で1,000人、2,000人といった規模があると思うのですが、その中での移行者数の部分というところをまた見させていただきたいと思います。

(中井部会長) はい、そのほかの御意見のある方いらっしゃいますか。中嶋さんいかがでしょうか。どうぞ。

(中島オブザーバー) しゅーとの中島です。状況がこうだというのは分かったのですが、全国的な傾向と比べて随分違っているなっていうふうに思うのですよね。基本的には全国的な数字を見ると大体6割は就労移行で、あとの4割をA型とB型で分けているっていうような傾向があるようなのです。毎年の数字見てもそうなのですが、これやっぱり東部とかB型がそれなりに一般就労に向けての移行が進んでいるという話は分かるのですが、移行のほうがあんまり活躍できてないっていうところが気になっていまして、事業所の数も減ってきているっていうようなことも聞いていますけど、その辺りはいかがですか。今、何箇所ぐらい、現在あるということでしょうか。私、西部なので西部は3か所って知っているのですが、あと、東部、中部の数字とか教えてもらってもいいですか。

(東口主事) はい。東部はまた確認をして、になるのですが、今現在は、新しくできたものも含めて3か所ある、そんなところもあったので2か所ぐらいだったと思います。それで、中部が1か所ですね。それで、西部のほうはクロスジョブさんであるとか、あとF i n e米子さんであるとか、あと大体新しくできたところもあるのですが、やはり中島オブザーバー御指摘のとおり東部地区、特に移行业務所をもともとされていたところがやめられていったというような数はかなりあるのかなと思っています。

(中島オブザーバー) すみません。マイクの具合か、こっちの具合かな。すごく聞き取りにくくて、東部2か所っておっしゃいました。

(東口主事) そうですね。また確認して、になるのですが、恐らくたしか2か所だったかな、2か所か、3か所か、どっちかだったと思います。すみません。

(中島オブザーバー) そうですか。それで、中部2か所ですか。

(東口主事) 1か所ですね。

(中島オブザーバー) 1ですか。

(東口主事) はい。また確認して連絡します。

(中島オブザーバー) 分かりました。前にね、就労移行の方集まって意見交換会やったと思うのですよね。そのときに、基本的に就労移行の取組が十分できていませんっていうようなことが東部、中部から発言があったように記憶してしまっていて、やっぱりそこをどうするのかっていう問題とセットの話じゃないかなって思っているのです。だから、数がこんだけですか、B型からそこそこっていう話だけではなくて、そもそもやっぱり全国的な傾向になってないのはなぜとか、そうするためにはどうするべきとか、その全体像をもう少し把握して、取組のその必要なところに力を入れていかないといけないのではないかなと思ったので、意見言わせていただきました。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。中野課長いかがでしょうか。

(中野課長) はい。中島さんありがとうございます。おっしゃるとおりの問題意識を県としても持っておりまして、西部のほうではしっかりと実績が上がっている、一方で、東部と中部では数としては上がっていない、この圏域の偏りをどうにかしないといけないなっていう問題意識があります。それで、来年度に向けて何かてこ入れしないといけないなっていうところは考えているので、具体のところまた御相談をしたいです。原因としてはその移行支援事業者自体の問題というか、集客のやり方だったり、あとは一般就労へのつなぎだったり、その就労移行支援事業者自体のノウハウ、力みたいところが1点と、あとはその相談だったり、なかぼつだったりから、しっかりその就労移行支援につなぐところがしっかりできているのか、単にB型とかA型とかに紹介するのではなくて、一般就労できる人はしっかり移行支援を使っただくようにその相談だったり、なかぼつだったりとかからアプローチをかけていく、その辺りの動きの違いなのかなっていうところを考えていまして、その辺り東部、中部、あと西部のほうも勉強させてもらいながら、具体の課題っていうのを見つけていきたいと思います。

ちなみに、もしお伺いできたらと思うのですが、ごめんなさい。移行支援の意見交換会っていうのは最近行われたものですか。

(中島オブザーバー) いや、県の主催だったと思いますけどね、2年前でしたっけ、やられたと思います。

(中野課長) 2年前、分かりました。それも確認します。

(中島オブザーバー) 協議会の中で、意見交換会やったほうがいいのではないかっていうことがあって、それ踏まえて行われたやつです。

(中野課長) はい。分かりました。

(中島オブザーバー) それからごめんなさい。数字の紹介ですけども、数字というか、状況の紹介ですけど、今おっしゃったみたいに、なかぼつセンターとそれぞれの福祉サービス

がどう絡んでいるかっていうところ大事なことだと思っているのですが、実は、なかぼつ3センターの数字を見ると鳥取県西部が一番B型への訪問とか、B型っていうか、就労支援施設への訪問というのが少なくて、かなり連携自体は東部、中部進んでいるように思うのです。その辺がこの数字につながっているのかもしれないなと思うのですが、やはりそれも大事だと思うのですが、おっしゃったように、就労移行支援自体がもう少し力をつけていかないと、何かこの数字は上がっていかないようなそんな気がしました。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。光岡さん、どうぞ。

(光岡委員) さっき課長が言われた就労移行支援のつなぎのところで、なかぼつセンターとか、相談支援事業所の話を書いていただいたのですが、そのとおりだと思うのですが、もう1点市町村の役割っていうか、新規利用のところでB型の希望される方が窓口でとつても多いのですが、そこでやっぱりほかの選択肢、就労移行、そういうものもやっぱり同時に紹介をするとか、情報提供するとかっていうことも必要じゃないかなっていうふうに基幹センターにおつた頃思っていたところなんです。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。クロスジョブの濱田さんは今のこの報告等で、御意見なりで何かありませんか。

(濱田オブザーバー) はい。ありがとうございます。西部は活動がきているなっていうふうに思いますけれども、中島所長が言われたように、県でも話し合いはされたのですね。ただ、やっぱり事業者として就労移行に取り組んでくださる事業者がないのかなっていうところを感じています。就労移行は難しいですし、出入りの管理とかがやっぱり難しいとは思いますが、私は特別な支援、就労に関しては特別な支援ができる場所だと思っています。なので、ぜひ就労移行に事業者として取り組んでもらって、この数字を引き上げてほしいなと思います。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。そのほかに御意見のある方いらっしゃいますか。はい、ないようですので、次の議題のほうに移っていきなしたいと思います。次の議題は(2)番就労継続支援A型事業所のスコアについての説明をお願いいたします。

(東口主事) 資料2、就労継続支援A型事業所におけるスコア分析について説明させていただきます。今回この主旨としましては、就労継続支援A型事業所の基本報酬算定に当たっては令和2年度までは1日の平均労働時間のみを報酬の基礎としていたところだったのですが、令和3年度から報酬改定によって、1日の平均労働時間併せて生産活動、また多様な働き方、支援力向上、地域連携活動という5つの地点から総合評価を行うスコア方式に変わりました。それで、昨年同じような時期に行わせていただいた令和4年度の第1回の就労支援部会で各事業所の令和4年度と令和3年度のスコア分析を行った上で、他の事業所の取組を参考にさせていただくことで、真似ができるようなものについてはそれに取り組んでもらうことで、今度、事業所はスコアの底上げが望める分野になるのではないかと示させていただきました。

ここで1年たったということで県内の事業所の令和5年度のスコア状況につきまして調査し、現状や推移を把握しているところです。対象としている事業所は今回26事業所、一部休止になった事業所であるとか、令和4年度に新規開設になった2事業所については、前年度比較ができな

いため除いております。こちらの令和4年度及び今年の5月に公開になっております5年度の基本報酬区分の届出内容を基に分析を行いました。

続きまして、3番目のところ、調査結果としまして全体のスコア合計点についてです。令和4年度についてはこのスコアが7段階に分けられているところを、ちょうど中間に当たる3段階目と4段階目、130点～149点帯が9事業所と最も多くて、それに続いてその1つ下の105～129点の8事業所へと続く状況がありましたが、令和5年度にはこのスコアが向上する事業所が増えたことで、上から2番目の報酬区分である150～169点のスコア帯の事業所が10事業所、前年度の2倍となっております。こちらの要因としましては、昨年度に設立された鳥取県就労継続支援A型協議会の会員事業所の大半でスコアの向上があったことから、協議会の中でスコア向上に向けた勉強会であるとか、事例発表等を実施していただいたこともあって、これが向上の一因になったのではないかなと考えています。

続いて、各個別の項目の状況について分析を行いました。1つ目、労働時間について、こちらについては、令和4年度には4時間半～5時間未満、これが45点というスコア帯だったんですけど、こちらの労働時間が伸びたことから、1つ上のスコア帯の事業所数の割合が増えています。令和4年度が38%、令和5年度が46%とポイントが上がっております。ただ、7時間以上であるとか、6時間以上7時間未満といった最も長いような時間帯のところの事業所数については大きく変化はございません。次のページに当たります。生産時活動のどうしても黒字、赤字っていったスコアになるのですが、令和4年度には前年度及び前々年度の生産活動収支が利用者に支払う賃金の総額未満であった。つまり経営の困難にあった事業所が4事業所、15%もあったものが、改善したところ1事業所のみに改善しています。

多様な働き方に係る制度整備及び実施状況についての項目に移らせていただきます。多様な働き方、スコア帯ごとの事業所数については、最もポイントが高くなる35点以上の事業所が増えました。令和4年度が10事業所だったものが令和5年度に13事業所、3事業所増えましたが、どの項目にも該当しないというようなゼロ点の事業所が、3事業所から1事業所に減少しており、全体的なスコアの向上傾向が見られます。算定対象項目については、利用者を職員として登用する制度であるとか、時差出勤制度を取り入れた事業所さんが増加しました。

次のページ、支援力向上、安心な職場環境の基礎となる支援力向上の取組について御説明させていただきます。こちらについても、昨年事業所のこういった項目のほう増やせば取れるのではないかというような御指摘をさせていただいた項目を選択されて増えているところなのですが、支援力向上のスコア帯などの事業所数については下から2番目ぐらいに15点ぐらいの事業所が減少し、全体の25点以上の事業所数が4事業所から8事業所に増加いたしました。この中で算定対象の項目として研修会へ、講師派遣、学会等でのいろんな市町村の向上事例等の研究発表の機会や販路拡大のための展示会、商談会の参加を選択する事業所が増加しております。①研修計画に基づく外部研修会であるとか、内部研修会の参加については減少、微減であるのですが、減少した傾向になりました。

5番目の地域連携活動、地域の事業所と連携した商品開発であるとか、地域社会と連携した活動等の実施状況、こちらについては4年度と令和5年度で大きく変化はございませんでした。や

はりスコア合計として向上した事業所さんが多くあったこととなります。最後にその他というところであるのですが、こちらはちょっとスコアの点数等についてです。スコア等による就労継続支援A型事業所が報酬の基礎とするスコア表を作られた場合については、国の規定に基づいてインターネットの利用であるとか、その他の方法によって毎年度4月中に公表することというふうにされています。ただ、今回調査対象とした26事業所のうち、自法人のホームページでの公表を確認できていたのが21事業所、残りの5事業所のほうが、確認ができておりませんので、今後、公表を行うよう働きかけていこうと思います。取りあえず報告については以上となります。よろしくをお願いします。

(中井部会長) はい、説明ありがとうございます。中野課長の声はよく聞こえるのですが、中嶋さんと先ほどの説明の声が聞き取れないのですが、皆さんのほう聞こえますか。すみません、首を振っとられる方が多いので、マイクのほうを見てもらい、聞きやすいようにしていただけますか。よろしくお願ひいたします。それでは、ただいまの質問とか、御意見がある方はいらっしゃいますか。山中さん、いかがでしょうか。

(山中オブザーバー) 西部でA型事業所のほう行っております山陰福祉会山中です。このスコア上がっていくというのは非常に大切なことで、やはり質、サービスの質をしっかりと上げている、ちゃんと工賃を払っている、長い時間が働けるようにしているなど、やっぱり働く環境のことがしっかりと評価に基づいてなっていますので、このスコアをいかに利用者の方に、地域に暮らす障がいの方に届けることが必要なのかという視点も、やはり今後ホームページの公表だけではなく、何か地域としての仕組みとしては必要なのかなというふうに思います。先ほど光岡さんが移行の存在も市町村のほうでしっかりと説明することが必要だということをお話していたけど、本当に情報を伝えることが圧倒的に地域で少ないような気がするの、そういったことを県としても考えていただけるといいかなというふうに感じました。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。スコアの公表のところですね。その他のところの御意見をいただきました。それに関しての御意見、または別のところで御意見、または質問ある方はいらっしゃいますか。乾さん、お願いします。

(乾委員) すみません。鳥取県自閉症協会の乾です。質問なのですが、書いてあるかもしれませんが、先ほど移行の話が出た後だったので、あれと思ったのですが、一般就労できた人数というか、何か囲い込みをされる、優秀な人はこう出さないとかっていうことをよく聞くのですが、一般就労が何人いますとかいうのはありますか。そんなのがあるといいのかなと思ったりしたのですが、勘違いだったらすみません。

(中井部会長) はい、いかがでしょうか。私が答えてもいいのですが、担当課のほうでお願いいたします。スコアの分ですね。はい、よろしくお願ひいたします。

(東口主事) はい。スコアの中でなんですが、一般就労された方をスコアの人数として算定されるかどうかというところについては、国が定めるスコア表の中にはそういった項目はないような形になっております。よろしいですか。

(乾委員) はい。ないということなのですね。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。

(乾委員) あるといいですね。以上です。

(中井部会長) そのほかの項目で、乾さん何かありますか。

(乾委員) ここでは大丈夫です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。それ以外の方で、中島さん、お願いいたします。

(中島委員) すみません。たびたびで。スコアの関係はこれでそうだろうなと思って見たのです。上がってよかったなと思いますし、ただね、これ今おっしゃったことと関連するのですが、国が示しているこのスコアの内容が必ずしも質とイコールではないって私は思っているのです。地域としていろいろな話を聞くと、やはりA型の支援の質ってというのはよく話題に出てきます。利用者さんからもあります。苦情もあります。それで、A型のいわゆる福祉サービスとしての質ってところは、このスコアの評価だけで判断することできないと思っていて、例えば障がいの方に対する特性の理解であるとか、合理的な配慮ができていくかどうかとか、またはよく就労した方がおっしゃるのですが、やっぱり困ったときに相談する人がいないっていうようなこともあるので、A型の中の相談体制どうなっているのかとか、そういうことを重ね合わせることによって初めてA型の質ってのが見えてくるのではないかなと思っていて、今回はこのスコアの結果が知りたいということだったと思うので、これに異論はないのですが、そもそもA型の質ってということについては、もう少し切り込んでいかないといけないような気がしています。

A型のグループで検討もしとられると思いますけども、そういったこともまた話し合っていたり、また、その結果等も聞かせていただきたいなというふうに思いました。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。先ほどのA型の協議会なのですが、昨年の12月に発足しまして、今14の事業所のほうが会員になっておられます。それで、スコアの勉強のこともなんですが、先ほど中島さんが言われたような本当にどう解釈していいのだろうかとか、そういったネットワークもすごく重要だなということで、今3か月に1回ぐらい事例発表ということで2か所、3か所の事業所のほうが発表された中に、内容、事業所の中身、どのようなことをされているのかというところを本当に詳しく、それぞれの事業所のほうで工夫された発表をされておりますので、そこも少し改善するのではないかなというふうには私も思っておりますが、先ほどの山中さんのスコアのところで、もう少しどなたかに御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。鳥取市の自立支援協議会の竹森さん、スコアの公表の部分で何か御意見ありますか。お願いいたします。

(竹森オブザーバー) はい。竹森です。よろしく申し上げます。先ほどからお話に出ていますけど、昨年度設立されたその県のA型協議会の中で、スコア表の勉強会だとかあって、参加させてもらうときにも一応確認したのですが、これはスコア表の中の支援力の向上のところの、外部研修への参加というところにはカウントされないよってということで、あくまでA型協議会の中での勉強会だからカウントじゃないよっていうふうにしたしかお返事いただいたと思うのですが、こういったなかなかうち自体もそのスコアをもうワンランク上げるってところを努力はしているのですが、現状維持で精いっぱいになっていて、こういったA型協議会の中でのスコア表の勉強会なんかも外部研修とかの対象にさせていただけるとありがたいなっていうのを思っているの

ですけれども、難しいでしょうか。

(中井部会長) はい。

(竹森オブザーバー) ごめんなさい。あとはやはり先ほど中井さんも協議会の中で事例検証、各事業所の実態の発表を聞いていろいろ参考になったり勉強になるというところをおっしゃっていたのですが、自主事業されているところと、うちも受託がメインなのですが、受託メインだとやはり展示会、商談会への参加っていうところは難しくなってくるし、なかなかスコアを上げていくっていうところが限られてくるというか、項目が。何かちょっと限界がうちの事業所で見ると感じている部分があって、もちろん事業所努力もたくさんしていかないといけないことはよく分かっているのですけれども、さっき言った外部研修だとかっていうところも含めて、もう少し、スコアを上げやすいような、緩和された内容になったらいいかなと思う部分も正直あります。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。山中さん、先ほど手挙がっていましたよね。

(山中オブザーバー) はい。

(中井部会長) 御意見ありますか。

(山中オブザーバー) はい。視察先であったりだとか、そういうようなモデル事業所だったり先進的取組をしている企業に行った場合は認められますという国の条文あるので、今、振興センターさんのほうも年にそういったことを計画してそういう機会をつくってくださっている様子なので、そこら辺もまた赤井さんのほうから伺っていただけたらいいかなというふうにも思いますし、そもそも論、スコアを上げるのというのは、先ほど中島さんの話も関係してくるのですけれども、スコア上げるというのは、まずもって生産活動収益が絶対に黒字でしっかりと工賃を払っていないとある一定まで絶対に上がらないのです。あとはA型のその支援が低いとか、ちょっと不足があるのではないかとこのところはB型も、私もAもB型もやっていますがB型も一緒に、どれだけ社内体制でどういった委員会があったり、研修制度をやっているかとか、そういったところになるので、そこは別視点はあるのですけれども、最低限、制度、就業規則でしっかりとここに書いてあるとか、そこら辺をしっかりと実行しているというところがスコアには反映されてくるので、そこら辺の担保にはなるのかなというところは感じております。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。山中さん、視察研修は振興センターではなくて協議会。

(山中オブザーバー) A型協議会での開催か。そうですね。

(中井部会長) はい。そうです。そこを間違えないようにしてもらえばと思います。

(山中オブザーバー) はい、ありがとうございます。

(中井部会長) 大森さん、西部の自立支援協議会のほうで、このスコアの公表の部分というのを何か圏域のほうでできることというのはないでしょうかね。

(大森オブザーバー) 西部地区は就労の部会がA型部会と一般就労部会と福祉就労部会に分かれていますので、その辺の話はA型部会でされていると思うので、その辺は山中さんが詳しいと思います。

(中井部会長) そのほかの御意見ありますか。大森さん、そのほかの御意見ありますか。

(大森オブザーバー) すみません、このA型の協議会というのは年にどれぐらい開催されるのですか。

(中井部会長) 3か月に1回ぐらいは運営会委員と、あとは研修、視察、事例発表を今、しております。

(大森オブザーバー) それで今、14事業所が参加されている。

(中井部会長) はい。14事業所だと思います。

(大森オブザーバー) それで今、26の事業所があるのですかね、県内に。それで新規も合わせるともうちょっとあると思うのですが、そうするとその半分ぐらいのところしか参加がないのかなというところで、やっぱりそういうところに参加される方というのは、ある程度そういう意識もあるというところなので、その参加されていないところをどう巻き込んでいくかというのが課題になっていくのかなというところで、さっきの竹森さんの話じゃないですけど、その研修のスコアに反映できるようにするとかすれば、多少はこう参加が増えるのかとか、その辺の参加者をもうちょっと増やしていけたらいいのかなと感じました。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。ごもっともだと思っています。一生懸命勧誘はされていますが、でも、何せ去年の12月にできたばかりでまだ1年たっておりませんので、これから頑張っていかなといけんところかなと思っています。赤井さん、ちょっとその辺のところ、協議会と振興センターは直接の関係ではないのですが、振興センターとA型の事業所の部分でそこから辺大森さんの御意見のところを何かヒントになるようなことというのはありますか。

(赤井オブザーバー) はい。振興センターの赤井です。よろしくお願いたします。A型協議会自体は振興センターが直接という感じではないのですけれど、一般的な当センター事業の中でA型事業所への個別対応という形で関わらせていただいています。その中で必要であれば協議会のほうの情報提供させていただき参画なども声かけをさせていただいております。その中で先ほど山中さんが言われたことの補足となりますが、当振興センターでは県の委託事業を含めて様々な研修をさせていただいておりますが、これはA型、B型それぞれ特化という形ではなくて、全就労継続支援事業所に御案内させていただいております。それをA型事業所が活用されるか、されないかは事業所がそこは判断していただくところかなとは思っております。

また、中井さんの質問にずれた部分もあるかと思いますが、A型事業所さんが参画していただけるような研修の企画や、逆にこういうのをしてほしいとかという御要望があればいただきたい。私どもの事業は工賃向上だけではなく、工賃及び賃金向上と認識しておりますので、また御提案いただいたらいいかなと思います。今後必要であれば、A型協議会さんのほうと情報等連携しながら進めていけたらいいかなと思っております。

また少し違うほうに話題になるかもしれませんが、1点だけ確認させていただいていいでしょうか。もちろんA型協議会さんもこのスコアについて勉強会等重ねていらっしゃる、1つの指針としては事業所にとってこのスコアというのは大切かなと思うのですが、ただスコアを上げるために研修会に参加するとか、スコアを上げるために視察に参加するというようにならないかと懸念しています。参加された後、本当に現場でそれをどういかに実践してもらうかがすごく大切だと思います。私たちはその参加するツールを提供していますが、参加後フォローできるところは

していきたいと思っております。そこも含めて一緒に連携させていただいたらいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。答えになっていたかどうかは分かんないですけど、以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。中島さん手挙げられました。

(中島オブザーバー) 今、話を聞いていて思ったのですが、今、研修とか、研修の参加というのがあるのですが、任意でやる研修というのはなかなか参加いただけないのですが、強制じゃないのですが、例えばサビ管の研修だとか、相談の研修だとか、一定の資格みたいなものが得られるようなそういう研修だと皆さん必ずそれを受講しないとイケないところがあるのですね。だから、そういう研修というのはすごく使っていないとイケないなというふうには思っています。私、サビ管とか相談のほうも関わらせてもらっていて、そこでやっぱりくぐっていく人たちに一番大事なことを伝えていかないといけないかなと思っているのですが、今度また基礎的研修というのが始まると思うのですよ、就労分野は。

その基礎的研修のプログラムをどんなふうに組んでいくかなというふうに考えているところです。一応国としてはカリキュラムがだんだんできつつあるので決まったものは示されると思うのですが、そういうのを例えばこの就労支援のこの部会とかで全員野球じゃないですけども、みんなやっぱりこれは伝えとかないとイケないみたいなことを話し合いながらプログラムをしっかりと実態に合ったというか、質を上げるような研修にしていくというのは1つのアイデアかなと私は思っています。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。中島さん言っていたのは、昨年より少し減りましたという先ほどの報告があったところで、法定研修、虐待防止等で必ず事業所のほうは研修に行かなければならないというところがありますので、そこは協議会だけではなくてA型の部分だと思えますよね。そこら辺、そこで県のほうが手を挙げておられますのでお願いいたします。

(中野課長) はい。障がい福祉課長中野です。皆様おっしゃっていただいたとおり、まさにこの協議会、A型の協議会はいいい取組かなと思っていましてA型協議会の皆さんに本当に感謝をしております。それで、まずは大森さんおっしゃったように参加事業所を増やしていくことが必要かなと思っていて、そのためには、この資料にもありますがA型協議会の会員事業所の大半でスコアの向上がありましたというところで、やはりこういうところで意見交換をし、まねできるところはまねすると上げられるところは意外とずっと上げられるというところが分かりやすいメリットかなというところがありますので、そういう情報共有で皆様にメリットがありますよというところをしっかりと周知して、県としても、会員をまず増やしていく。それでその先にネットワークがしっかりできたらその先に中島さんがおっしゃったようなそのスコア以外の部分で必要な質のところとか、スコア以外のところで皆さんでやっていただく必要がある部分というのがあると思うので、そのネットワークづくりと底上げができた段階で、その次の段階でその先にある質というか支援力というか、その部分の話というのもできたらなと思っております。

それで中島さんがおっしゃったその新しい研修というか、雇用と福祉の一体の部分の研修だと思っておりますけども、そこは本当に大事なところで今後つくっていくところですので、施行の前に

というか、施行後でもいいのですが、それはこの部会での議題にしたいなと思っていましたので、それはやっていこうと思います。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。山中さん、手を挙げとられますよね。

(山中オブザーバー) すみません。

(中井部会長) お願いいたします。

(山中オブザーバー) さっき言っていた中島さん、研修のことなのですが、このA型については僕、特に強く思っていて、今、すごく新しい事業所の設立が立て続けに地域で起こっていて、そうするともう本当にこれ知っというところから設立するところでしょうということまで分かっていなかったり、そういったところの事業所がやっぱりどうしても一般の会社から出てきているところが多いと、そこら辺がもともと福祉施設じゃないところになると非常に手先の作業はあっても支援がないみたいなのところがあると自分の中でも感じています。

それで、西部のほうには自立支援協議会にA型の部会をつくってもらっていますので、そこにぜひとも最初に立ち上げたらまずは部会に来ていただいて、そこでA型の在り方とか、なぜこういうような取組をしているのかということをお話してはいるのですが、ぜひともこういうところのA型の協議会の取組をしっかりとまた県の研修とかでも、何か伝えていただけるともう少し加速的に、もうこれ風土なので一般就労が多い地域だとか、例えば西部だったらすすめる会とかをしてもらっているおかげがあってやっぱりハローワークと連携して障がいの方に一般就職していくものだよなというところ、これ地域の風土になるので、こうやって1年や2年じゃなかなかできないものだと思います。

なので、長年かけての取組でしっかりとA型の在り方だとか、しっかりとサービスの質を担保するような取組をしていかなくちゃいけないと思っていますので、ぜひともこのA型連絡協議会、魅力的な協議会にしていくのはもちろんなのですが、先ほど県の方がおっしゃったように、しっかりと県のほうからもこういった告知のほうをしていただけるとありがたいなというふうに感じました。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。職業センターの長瀬さんでしょうか。手を挙げておられますがお願いいたします。

(長瀬オブザーバー) すみません。職業センターの長瀬です。今、お話を聞きまして新規のA型のほうも立ち上がっているという話も聞きますし、確かに山中さんおっしゃられたとおり、協議会自体が充実して行って、その上で質の向上等も必然的につながっていけばというふうに思いますし、障がいのある方ですね、それぞれ特性が違ったりとかしますので、その辺の支援力というのは非常に大切なのかなというふうに感じております。以上です。

(中井部会長) はい、御意見ありがとうございます。そのほかありますか。光岡さんいかがでしょうか。

(光岡委員) はい。ありがとうございます。公表のことなのですが、厚労省の通知の中にも公表というのがあって、その中に市町村の役割のところもあるのですが、このことを地域に公表するということはとても大事なことだと思うのです。一方、何のためにスコアをやっているかということ、やっぱり質を上げることだろうし、それは利用者の方々のためというところに集約さ

れると思うのです。それで、利用者の方に情報を提供するというか、公開するという過程で考えたときに、自分自身が通っている、起業している事業所がこのスコアでいうとどこに当たるのかという辺りをその全体のスコアと自分のとこの利用している事業所のスコアがどうなのかということを知るといことも利用者にとっては大事なことじゃないかなと思っていて、そういう仕組みができればいいなというふうに思ったところです。以上です。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。公表の部分ですよね。今回、県のほうから確認をできたのが21事業所、公表の確認をできなかった5事業所に対しては今後、公表を行うように働きかけていくとありますが、なかなかこれって難しいかなと思いつながら、どうなのかなというのがあります。この部分で県庁様、何か働きかけていく、具体的に何かありますか。

(中野課長) はい。障がい福祉課長中野です。まずは会話をしていくのかなと思っていて、公表してない事業所に対して、頭ごなしに公表しろと言っても公表できない理由が何なのかが分からないので、それぞれの事業所にヒヤリングというか、こういうルールになっていますよねと、それで、なぜ公表しないのですかというところから会話をしていくのがまずあれなのかなと思っていて、頭ごなしに公表しろと言っても、なかなか難しい事情があるかもしれないので、そこは働きかけながら、会話をしながら、状況を見ていくということをまずはしていこうかなと思っています。

(中井部会長) はい、ありがとうございます。みんなの家の。

(尾崎委員) すみません。みんなの家の尾崎です。お疲れです。私もスコア分析見させていただいて、先ほどの公表のところは何か気になりました。気になったというのが、国の規定に基づき公表することとされているとなっているので、それが何でなのかなというのと、併せて義務のようなものだったら、しないといけないのかなと思いつまして、この辺が働きかけていくでいいのかどうかかと思って、この資料を見させてもらったので。理由があるというか、理由があつたら公表しなくてもいいのですかね、と。

(中井部会長) ありがとうございます。山中さん同じ意見ですか。同じ公表の部分ですか。

(山中オブザーバー) 全く同じです。指導の対象というか、多分やり方が分かってないのか。これを知らないとかっていう本当に初歩の話だと思って、やらない理由って多分ないと思うのですよ、スコア提出しますし、公表しないって多分やり忘れていいのか、やらなくちゃいけないことを認識してないのかとかなんで、県から一報入れれば必ず取り組むことだし、取り組ませなければいけないことという認識です。以上です

(中井部会長) はい、ありがとうございます。このA型の一番最後のページのところの最後から4行目ですよね。市町村等が発行する情報誌へ掲載とかいうふうに、自分のところのホームページだけではなくて、近隣の例えば市町村又は自立支援協議会のホームページでも公表されているところがあるので、そういったところも、今後、検討の中に入るのかなというふうには私が個人的には思っています。先ほど中野課長のほうからコメントをいただいたので、何かさらにも何かあれですが、どうしましょう。いいですか、コメントをお願いいたします。

(中野課長) はい。ありがとうございます。歯切れの悪い言い方をしてしまったのですが、皆様おっしゃるとおり、これは基準省令に基づく規定で、公表しなければならないとなっている

ので、国の定める義務であります。それで、別に何か特段の事情があるからしなくていいということにはなっていないので、義務だという認識です。それで、しっかり働きかけてはいいと思うのですが、とはいえ、頭ごなしにやるとそれはそれであれですので、丁寧に会話をしながらやっていこうとは思っています。はい。以上です。

(議事3について議論)

皆さん、活発な御意見いただいてありがとうございます。さっき意見にもあったのですが、この体制としての協議会、部会は最後ということになります。私自身もこれで終了になるのですが、皆さんには大変お世話になってありがとうございました。今の話が今後継続されることもたくさんありますし、もっと言えば全部そうかもしれません。なので、次の協議会の中でしっかり生かしてもらいたいと思いますし、当然地域の活動をしているメンバーとして、当然皆さんも中心的なところで活躍されると思うので、ぜひ県の協議会にどんどん意見をさせていただいて、連携して取り組んでいきたいというふうに思いますので、皆さんどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

(中井部会長) はい、光岡さんありがとうございます。じゃあ、この議事についてはもう終わりますので、私も光岡さんと同じく9年ですね、この会のほうに所属をさせていただき、多くの方に本当に協力をいただきながら今日を迎えたと思います。昨年、A型の協議会のほうを立ち上げたのは、やっぱりないものをつくっていくというところで、行政、また、そういった法律の中にはありますが、自分たちの中でもやれることもあるのだろうなというところで立ち上げて、今、また、次の新たなところに向かっていこうかなというふうに思っております。また、本当に本日は御議論をたくさんしていただきありがとうございます。それでは県庁のほうにお返しします。よろしくお願いします。

(中嶋課長補佐) はい。皆さん長時間にわたりありがとうございました。そうしましたら、これもちまして令和5年度鳥取県地域自立支援協議会第1回の就労支援部会のほう閉会とさせていただきます。皆さん、長時間にわたりありがとうございました。